

雪道における自己転倒者の傷病の特徴について

Study of Injuries Caused by Slip and Fall on the Icy Slippery Road

○永田 泰浩¹, 金田 安弘¹
Yasuhiro Nagata, Yasuhiro Kaneda

1. はじめに

札幌市では、1995年度以降、600名以上の市民が雪道での自己転倒によって救急搬送されている。2004年度には12月～3月の救急搬送者数が1000人を超え、大きな社会問題となったが、近年は2012年度、2014年度、2016年度、2017年度と、12月～3月の救急搬送者数が1000人を超えることが多くなってきている。北海道開発技術センターが事務局をつとめるウインターライフ協議会では、転びづらい歩き方や転倒時に身を守る服装などの情報をインターネット、リーフレットで周知しているほか、北海道内を中心に転倒予防講習会などでの講師を務めている。転倒予防の周知や注意喚起において、どのような人が、どのような傷病を患っているかを把握することが重要であり、本研究では札幌市消防局の貴重なデータから、傷病部分について着目して、整理、分析を行った。

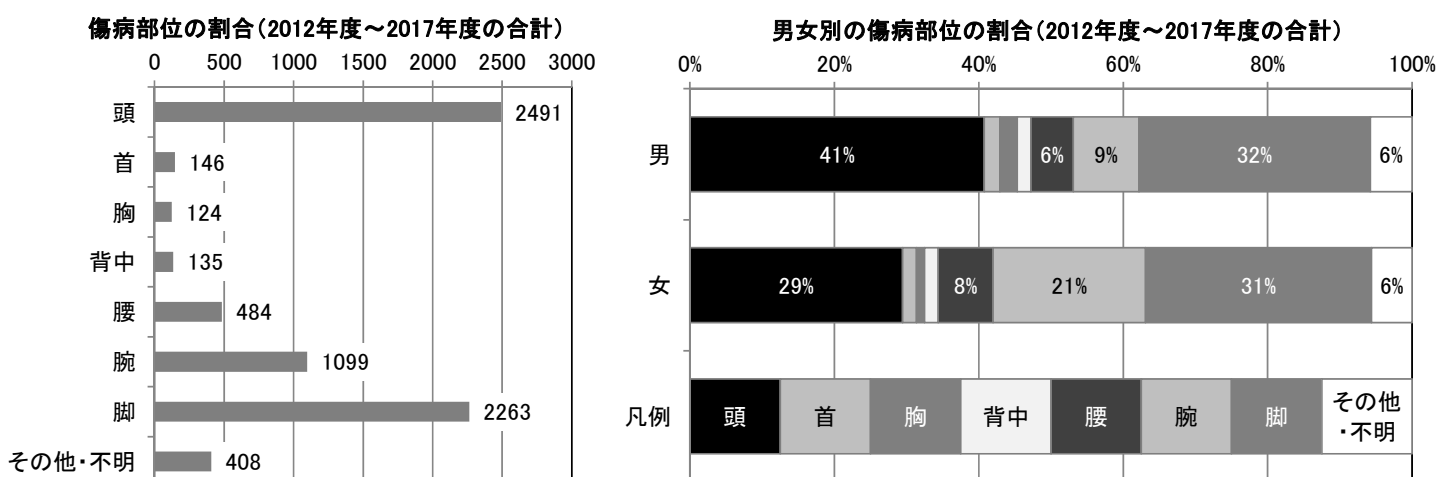
2. 分析データについて

分析に用いたデータは、札幌市消防局の救急搬送データのうち、事故種別が「一般（雪の自己転倒）」に分類されている事例であり、「傷病名」の記録が収集できた2012年度から2017年度までの6年間のものである。これまで、冬期の救急搬送者の分析では、12月～3月の救急搬送者を対象としていたが、近年、11月にも「一般（雪の自己転倒）」で救急搬送される事例が多くなっており、今回は11月の事例も含めた7150事例を対象とした。

3. 分析結果

雪道での自己転倒による救急搬送者の傷病部位は、下図（左）のように、頭部が2491件（35%）と最も多く、次いで、脚部が2263件（32%）、腕部1099件（15%）と続いていた。頭部と脚部で全体のおよそ2/3を占めていた。下図（右）では、救急搬送者の傷病部位を男女別で比較した。男性は頭部が41%と多い一方で、腕部は9%と少なかった。女性は頭部が29%であり、脚部（31%）よりも少なかった。一方で、腕部は21%と多くなっており、男性の2倍以上の割合となっていた。脚部の割合は男女で大きな差はなかった。

転倒者の傷病の特徴を分析した既存文献としては、原らの研究¹⁾がある。男性は頭部が多く、女性は腕部が多いなどの特徴は、既存研究と同様の傾向が確認できた。



分析にあたり、救急搬送者データをご提供いただいた札幌市消防局様に深く御礼を申し上げます。

1) 原文宏, 川端 隆, 小林 英嗣, 1990年: 札幌市の冬期歩行環境の安全性について—路上転倒事故の実態調査—, 第6回寒地技術シンポジウム論文・報告集, 151-157.